

第 24 回 日本木材学会地域学術振興賞
「九州産スギ材の利用技術開発と地域木材産業振興への貢献」

城井秀幸（大分県農林水産研究指導センター）

この度は、地域学術振興賞という名誉ある賞を頂き大変光栄に存じます。ご推薦、またご選考に当たられた先生方に深く感謝申し上げます。また、同時に、これまで研究開発や技術普及の現場でご指導、ご鞭撻をいただきました大学および森林総合研究所の先生方、全国公設試験研究機関の皆様、木材協同組合、森林組合をはじめとする関連企業・団体の皆様、職場の上司、同僚の皆様に深く感謝とお礼を申し上げます。

昭和 58 年に大分県に採用され、平成 2 年から大分県林業試験場（現 大分県農林水産研究指導センター林業研究部）での勤務となり、以来研究員としてスギ材の強度性能や木材乾燥などの地域材利用促進に関連する調査・研究開発に従事してきました。県の試験研究機関として、その時々地域が必要とする研究を皆様とご一緒に行ってきました。

今回の受賞は、これまでご一緒に仕事をさせていただいた関係者皆様への賞を代表して受け取るもので大変うれしく思っています。この場をお借りし、これまでの仕事の一端をご紹介させていただくことで皆様へのお礼に代えさせていただきたいと思えます。

最初に、スギ材の強度性能では、スギ材の実大強度性能を丸太、製材品、集成材及びパネルについて明らかにしてきました。特に丸太の強度測定では、(故)黒川哲郎先生が設計されたスケルトンログ工法用の部材供給を図るため、業界と一体になって数多くの丸太の動的ヤング係数を測定したことを記憶しています。また、製材品や集成材等の強度性能についてもデータ蓄積を重ねてきました。その成果は、県内の大型木造建築物の設計資料や、梁桁材のスパン表の基礎資料として利用されています。

次に、木材乾燥では、高温低湿処理と天然乾燥等を組み合わせ、内部割れのないスギ・ヒノキ構造材を生産する大分方式乾燥システムの開発に従事させていただきました。当時、表面割れのない高温セット乾燥が開発され脚光を浴びていました。その頃、林業試験場では、天然乾燥をしている業者から割れ防止についての相談が持ち込まれており、高温セット乾燥を天然乾燥に応用することで表面割れが大きく改善されることがわかりました。その後、産学官で構成する大分県乾燥材協議会から高温低湿処理と天然乾燥等を組み合わせた乾燥法の提案があり、行政機関・業界を巻き込んだ乾燥システムへと発展していきました。この乾燥システムは、大分県内の製材工場へ技術移転され、大分方式乾燥材として生産量は拡大し、関係者から高品質乾燥材として現在でも高く評価されています。

平成 27 年度は日本木材学会九州支部大会の運営委員会事務局をあずかり、九州では初めてとなる九州森林学会との共同開催を行うことになりました。共同開催を終え、両学会の交流の必要性を強く感じています。また、木材セミナーの講師や学校教育の木育授業を通じ、一般の人への木材 PR がとても大切だと感じました。1 人でも多くの人に木材の楽しさを知ってもらい、木材のファンになっていただきたいと思えます。

最後になりますが、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。